



編集／発行●山梨県総合農業技術センター
住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105
電話●0551-28-2496 Fax.0551-28-4909
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html>
E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



ブドウ「サニードルチェ」の視察研修会を開催

「果樹技術普及センター」

FRUIT OF YAMANASHI
Sunny Dolce



「サニードルチェ」は、国の指定試験事業により、山梨県果樹試験場が昭和61年に交雑を行って選抜し、平成21年12月に品種登録されました。ジベレリン処理により種なし栽培ができ、果粒は長楕円で11g程度、青リンゴの様な香りが特徴で皮ごと食べられ、外観と食味が優れる赤色系新品種のブドウです。

名前の「サニードルチェ」は、「太陽の」、「日当たりの良い」を意味する英語の「サニー」と、「甘い」、「スイーツ」を意味するイタリア語の「ドルチェ」を合わせた造語で、「太陽をたっぷり浴びたスイーツ」をイメージしています。

県内には、平成21年秋から苗木が供給され、今後も栽培面積の増加が見込まれています。



8月27日には、果樹試験場において、生産者、JA営農指導員を対象に視察研修会を開催しました。JAのブドウ部会の生産者を始め約100名が参加し、栽培管理や品種特性について理解を深めていただきました。

今後、果樹技術普及センターでは、現地における品種特性の把握と栽培技術の確立に向けた支援を行っていきます。

●視察研修会の様子



地域の気候に適した・・・

飼料用トウモロコシ栽培の普及に向けた取り組み

「畜産技術普及センター」

近年の飼料価格高騰や飼料自給率向上への対策として、自給飼料の増産を推進していますが、特に飼料用トウモロコシは栄養価が高く、安定した乳量確保には欠かせない自給飼料の一つです。現在、酪農試験場において飼料用トウモロコシの奨励品種選定試験を行っていますが、これと並行して、畜産技術普及センターでは北杜市高根町清里に展示圃場を設置し、奨励品種やその候補品種の栽培実証を行っています。

今年度は熟期が異なる4品種（36B08、タカネスター、KD670、ゆめそだち）を栽培し、生育及び収量調査を行って

●収穫風景



います。地域の気候に適した品種の導入により、単収の増加や飼料費の低減が見込まれます。今後調査結果をまとめ、酪農家の皆様に情報提供し、優良品種の普及を図っていく予定です。



●圃場調査



RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI 2010

やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告

ピオーネ栽培の省力化に向けて

「中北地域普及センター」



●房づくり時の現地検討会



●収穫直前の現地検討会

中北地域普及センターでは、ぶどう産地の葦崎市穂坂町において、JA梨北穂坂支店と連携し、主力品種である種なしピオーネの省力栽培体系実証ほを設置しました。これは、果樹試験場の平成21年度試験研究成果をふまえ、これまでの花穂伸長処理技術に加え、ジベレリン1回処理等の技術を組み合わせた省力栽培体系の現地実証です。

本年度は展葉5枚（花穂伸長処理）、房づくり、摘粒、収穫直前の時期に現地検討会を開催し、各時期の管理方法と併せ、得られた省力効果について検討を進めてきました。

今後も省力栽培体系の導入希望者への普及を目指し、引き続き中北地域の果樹産地の維持・発展のため支援を行います。

芦川地区の活性化に向けて

「峡東地域普及センター」



おごっそう屋

●活気づく店内

今年3月に笛吹市芦川地区と富士河口湖町を結ぶ、若彦トンネルが開通しました。このトンネルの開通によって、芦川地区は、観光地を数多くかかえる富士北麓圏域とのアクセスが良くなりました。そして、新たな観光周遊ルートの拠点施設として4月には、地域の活性化を目的に整備された農産物直売所「おごっそう屋」がオープンし、毎日活気に満ちあふれています。当普及センターでは、総合農業技術センターと連携し、新規農産物の実証ほの設置や、新たな品目の栽培提案など多品目生産と新たな産地化に向けた様々な支援を行い、農産物直売所の利活用を促進しています。



新たな品目の提案・実証への取り組み

「夏秋どりイチゴ」

芦川地域の夏の冷涼な気候を活かし、高冷地の作付けに向いている夏秋どりイチゴで、県のオリジナル品種である「かいサマー」の実証を行っています。なお、ほ場はホウレンソウ雨よけハウスを有効活用しています。

「シンテッポウユリ」

スズランの群生地で有名な芦川地区の「花」のイメージから、シンテッポウユリの栽培を試験的に行っています。また、景観形成のため、ほ場での実証とあわせ、直売所隣の空いた敷地でも栽培を行っています。今後も関係機関と連携する中で、直売所の更なる発展、また芦川地区の活性化に向けて積極的に取り組んでいきます。

新たな担い手の定着支援・市川三郷町大木地区

「峡南地域普及センター」



市川三郷町大木地区では、平成20年11月から3.7haのほ場整備の工事を開始し平成22年8月末現在で工事はほぼ終了しています。

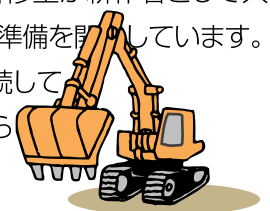
普及センターは基盤整備した畑の担い手を確保する必要があることから、平成19年度から基盤整備地の有効利用推進に取り組んできました。まず地区に対して耕作希望アンケート調査を行い、地区の方が耕作できる面積を把握し、残りの畑の有効活用について「大木ほ場整備土地利用検討委員会」を設立、その中で地区内外から担い手の掘り起こしを行いました。



●基盤整備されたほ場

その結果、地権者以外の数名の方とともに北杜市高根町の梶原農場が受け入れている研修生が耕作者として入ることになり、22年8月から秋作の準備を開始しています。

今後は地域へ定着し、営農を継続していけるよう関係機関と連携しながら



富士山麓地域の野菜産地の振興

「富士・東部地域普及センター」



●全農フェアへの出品

富士山麓地域には、高冷地の気候を生かした野菜が豊富にあります。しかし、耕地が限られ高齢化が進んでいるため、安定した農業所得や担い手の確保が課題となっています。

そこで、富士山麓地域を一つの生産地としてとらえ、地域の野菜生産者が連携し、市町村、JA、普及センターとが一体となって取り組む、「富士山野菜生産者協議会」を今年2月に設立しました。協議会では、参加する生産者の野菜の総称を「富士山やさい」とし、生産力と販売力の強化を目指しています。

普及センターでは、「富士山やさい」の品質向上と安定供給を目指して、栽培技術を中心に支援し、地域の農家が安心して経営できる農業と次世代の担い手の育成を図っていきたく考えています。今年度は、富士山やさいの知名度向上と、会員相互の情報交換を中心に活動しています。



●富士山やさいフェア開催



●スイートコーン 検討会



釜無川施設野菜地域の施肥改善

「総合技術普及センター」



施肥例：抑制キュウリ

●現地研修会

肥料・資材名	成分含有率(%)			施用量 (Kg/ 10a)	改善後			改善前		
	N	P	K		成分量(kg/10a)			成分量(kg/10a)		
					N	P	K	N	P	K
新釜無川有機配合	6	1	3	100	6.0	1.0	3.0			
旧釜無川有機配合	6	6	8	100				6.0	6.0	8.0
菜種粕	5	2	1	100	5.0	2.0	1.0	5.0	2.0	1.0
スイマグ				25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
牛糞堆肥	1.7	1.6	1.7	375	0.7	1.2	2.0	0.7	1.2	2.0
計					11.7	4.2	6.0	11.7	9.2	11.0

南アルプス市と中央市の釜無川を挟んだ施設野菜地域は、長年にわたるトマト、キュウリの連作により土壌の養分バランスが崩れ、燐酸や加里が過剰な状況にあります。

一方、近年の肥料価格の高騰により、農業経営への影響が懸念されており、土壌の養分バランスの改善に加え肥料コストの低減が急務となっています。

そこで、農業技術センターは、JA全農やまなし県本部、JA中巨摩東部、JAこま野、肥料メーカーと連携し、これまで利用してきた「釜無川有機配合肥料」を見直し、燐酸と加里の成分を低減させた、新たな有機配合肥料を試作し、現地実証を進めてまいりました。

秋冬収穫となる抑制栽培から冬春収穫となる半促成栽培にかけ実証を行なった結果、各作型、品目とも従来の

配合肥料と比較して生育差はなく、栽培後の土壌養分バランスは改善に向かう傾向にありました。また、肥料コストも10%以上の低減となりました。

現在栽培されている抑制栽培のトマト、キュウリから、新しい「釜無川有機配合」が本格的に導入されており、施肥改善やコスト低減に向けた取組みの一助となっています。



日本一の中山間(ふるさと)をめざして...

第3回 やまなし農業・農村シンポジウム開催

- 日時／平成22年11月21日(日) 午後1時30分～(開場1時)
- 会場／公立大学法人・山梨県立大学池田キャンパス講堂
- 内容／

基調講演

「農と食から地域の活性化を考える」

小泉武夫・東京農業大学名誉教授

入場無料

県(てい)談(だん)

「安心できる農産物づくりと販路拡大に向けて」

小泉武夫・東京農業大学名誉教授

菅原文太・俳優、農業生産法人「(株)竜土おひさまの里農園」代表
横内正明・山梨県知事

- 申込方法／申込期間

平成22年10月1日(金)～11月5日(金)

事前の申込が必要です。県内農務事務所や市町村窓口等に9月下旬配布予定のチラシ裏面にある参加申込書に必要な事項を記入のうえ、FAXまたはメールでお申込みください。先着順にて定員500名になり次第締め切りとさせていただきます。

- お申込み・お問い合わせ先

山梨県農政部耕地課

電話・055-223-1626 FAX・055-223-1624

Eメール:kouchi@pref.yamanashi.lg.jp